

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.857 2026

2026年6月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／太田直宏 編集人／横山由利亜



水難事故から命を守る

YMCAウォーターセーフティーキャンペーン

6月1日～9月30日

全国YMCAアクアティック事業部

まもなく夏。水遊びが楽しい季節を前に、YMCAは今年も「ウォーターセーフティーキャンペーン」（主催：全国YMCAアクアティック事業部 [部長 澤村奈緒]）を実施します。6月～9月まで3カ月間、全国で着衣泳体験会などを開催するほか、安全知識をまとめたハンドブックを配布し、水難事故の防止に努めてまいります。

海、川、湖など水辺の事故による犠牲者は、世界で年に30万人を越え、その半数は25歳以下です。低所得国に多く、東南アジアでは5歳～14歳の死因の第1位となっています。WHO（世界保健機関）もこれを大きな問題だとして、2021年から毎年7月25日を「世界溺水予防デー」と定め、予防可能であるはずの事故を防ごうと呼びかけています。日本での事故は、50年前に比べ4分の1ほどに減ったものの、2024年度は約800人が水遊びや、魚採り、釣り、水泳中の事故などで亡くなっています。（警視庁生活安全局）

YMCAは1917年（大正6年）、日本初の室内温水プールを作ってクロールなど近代泳法を普及すると同時に、救助法や安全教育も開発・推進してきました。「全国YMCAウォーターセーフティーキャンペーン」は1981年から45年にわたって毎年行っており、昨年度は全国約120の小学校等でおよそ2万人が着衣泳等を体験したほか、指導者の養成、救助法の講習には1万人が参加。ハンドブックも10万部配布するなど、地域における安全知識の周知に努めています。日ごろの水泳教室でも、速く泳ぐ技術だけでなく、「顔をあげたまま泳ぐ」など水から身を守る術も教えています。

アメリカなど海外のYMCAもまた水上安全教育に力を入れており、大阪YMCAは、ビクトリア（オーストラリア）やソウルYMCAなどと構成している「アジア太平洋都市YMCAネットワーク（YAPUN）」内にタスクチームを設置。ノウハウの共有や、東南アジアでの講習会実施のほか、「世界溺水防止会議」にも参加し、グローバルな取り組みを展開しています。2019年から3回にわたってカンボジアに行き、各国のスタッフと一緒に安全講習会を実施した山口ひかるさん（大阪YMCA）に話を聴きました。

「AQUA WATCH ASIA」～カンボジアでの取り組み

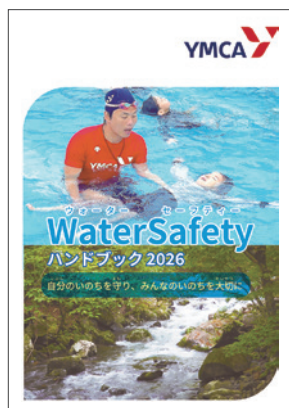


カンボジアは水難事故が最も多い国の一つで、年間2,200人、1日に6人もの命が失われています。飲料水など日々の生活用水として川や池を使う上、内戦が続いた影響でインフラ整備が遅れ、水辺にはフェンスも標識もありません。また悲しいことに、ポル・ポト政権下で起きた知識者層の大量虐殺のため、いまだに教育・医療体制が整わず、安全知識が普及されていない現状もあります。さらに近年は気候変動で雨量が増え、水はけの悪い土地には池ができやすくなっています。

カンボジアで私たちはまず、現地の学生ボランティア20人に指導者養成の講習を行い、その後5日間、彼らに指導補助と通訳をお願いし、スラム街の子どもたち約100人に講習を行いました。学生も子どもも水泳経験が全くないので、顔を水につける練習から始め、潜ること、浮かぶこと、そして5m泳ぐことを目標に指導しました。また、溺れた人を見つけたときの対応や、水辺の危険、予防法についても伝えました。

2020年以降はコロナ禍で中止となりましたが、私たちは募金を集めて2024年から再開。今年は東京YMCAの職員も参加しました。今後も「知っていれば、防げた死」をなくすため、正しい知識の普及に努めていきたいと思っています。

（聞き手・編集部）



水遊びの注意から救助法まで、水上安全の知識を掲載。ダウンロード無料。2026年度は新たに英語版のハンドブックも制作。



祝 世界第3位

鹿児島YMCAチアダンス高校生チーム

鹿児島YMCAのチアダンス高校生チーム「CAST Magic Faith」が4月25～26日、米国フロリダ州で開催された世界最高峰のチアダンス大会「The Dance Worlds 2023（主催：IASF）」に出場し、世界第3位に入賞しました。同チームは2023年に第2位を受賞していますが、その後2025年のルール改正によって16歳以上は大人と同部門となり、今回は各国の大人のチームと共に競い合うという厳しい展開となりました。

今年の大会には12カ国から33チームが参加。鹿児島チームは初日にミスがあつて苦戦したものの、決勝では高得点をマーク。「見ている人を笑顔に元気にしたい」と、練習の成果を存分に発揮して来場者の心をつかみました。

鹿児島YMCAのチアダンスは、これまで15年連続で全国大会に出場してきた強豪チームで、今年3月に行われた国内大会でも入賞し、すでに来年度の世界大会の出場権も獲得しています。モットーは「ポジティブに、互いを認め合い、高め合う」。笑顔とチームワークの良さが特長です。

今回の世界大会出場に際しては、YMCA内外から多数のご支援・応援をいただきました。会場に近いフロリダ・セントラルYMCAは、期間中の練習場所を無償で提供くださった上、メンバーとの交流の機会も設けて応援してくれました。また物価高で渡航費がかさむ中、全国のワイズメンズクラブから

もご支援をいただきました。温かな心に支えられて大舞台に立てたことは、生徒たちの心に一生忘れることのない経験として深く刻まれたと思います。

鹿児島YMCA 新内 博之



決勝戦の演技は右記の動画で公開しています。ぜひご覧ください。



「シリアスゲーム」で若者を育てる アフリカYMCA主事が、日本で講演



「シリアスゲーム」とは、学習などの目的で開発されるゲームで、たとえば災害の疑似体験や、温暖化を考えるゲームなど、昨今は行政やNGO、医療などさまざまな分野で、デジタル・アナログを問わずに活用が進んでいます。こうしたゲーム

の可能性を研究するため4月17日～18日、NPO法人「国際ゲーム開発者協会日本（IGDA Japan）」の主催で「東京シリアスゲームサミット」が行われ、企業や行政、クリエイターなど150人が参加。多様な事例の一つとして、アフリカYMCA同盟のロイド・ワマイ主事がオンラインで登壇し、犯罪歴のある若者の更生プログラムにおけるゲームの活用について紹介されました。

アフリカには現在、ケニアやエチオピアなど23カ国にYMCAがありますが、いずれも干ばつによる不作や内紛など社会課題が多く、若者たちは十分な教育や安定した仕事を得られずに犯罪に巻き込まれるなど、厳しい状況が続いています。

以前から若年受刑者の教育に力を入れているアフリカYMCA同盟は、違法行為に巻き込まれないための知識や、干ばつの原因である気候変動問題などを若者に分かりやすく伝えようと、カードゲームを開発。ユースボランティア30人が研修を受けて講師となり、昨年2500人余りが受講したところ、「知識の習得だけでなく、ゲームをとおして自分で考えるようになった。より良い社会を作る担い手としての意識が芽生え、前向きになった」等と、高い効果がえられたことが報告されました。

会場からは「低所得者層を対象に、社会課題に取り組む好例」といった感想が寄せられました。アフリカYMCA同盟は引き続き、「Vision2030」の取り組みとしてこれを推進していく計画です。

ウクライナに ワイズメンズクラブ誕生

世界86カ国で地域のYMCAと共に活動している奉仕クラブ「ワイズメンズクラブ」ですが、この度ウクライナにクラブが新設されました。4月19日には新設クラブへの「国際協会加盟認証状伝達式（チャーターセレモニー）」が首都キーウで開催され、オンラインを含め80人余りが参加しました。

初代会長には、昨年までウクライナYMCAの総主事を務め、日本にも多くの友人を持つ、ヴィクトル・セルプロフさんが就任しました。式では15名の創設メンバーが紹介され、今後3年間の計画として、青少年の育成とYMCAへの支援、戦争の影響を受けた人々への人道支援、退役軍人およびその家族への支援プログラムを柱とした活動を展開していくことが表明されました。

オンラインで参加した山本剛史郎さん（埼玉YMCA会員、ワイズメンズクラブ国際協会東日本区国際交流事業主任）は、「日本からも多くの仲間が参加したのは、大きな期待の現れです。困難な状況の中で希望の光となり、地域社会を支え、国際的な友情の架け橋として大いに成長されることを心から願います」と語りました。

日本YMCA同盟 田附 和久

アジア・太平洋YMCA同盟 常務委員会開催

アジア・太平洋YMCA同盟（APAY）常務委員会が4月17日から19日に、韓国・済州島のオフィスで開催されました。APAYの役員、加盟する15のYMCAの会長、総主事、グローバル推進を担当するスタッフ等約70名が出席しました。ゲストとして世界YMCA会長ソヘイラ・ハイエック氏が、母国であるレバノンが緊迫した情勢であるにもかかわらず出席。アジア・太平洋地域のYMCA運動への感謝と、多くの示唆に富んだメッセージが与えられました。

委員会では2025年度のAPAYの活動報告、パートナー・サポート・グループ（PSG）で運営支援を受けているYMCAの現状報告、急速な変化が続きます多様化する現代社会におけるYMCAクリスチャンミッションの在り方、年齢や性別にとらわれず、より多くの人々が意思決定に関われるようにするための規程の検討など多岐にわたる協議が行われました。歴史や文化、社会的背景、政治的課題など異なる背景を持つ私たちが、YMCAの名のもとに社会への責任を果たすために、時には熱い議論が交わされました。その中で、今年の常務委員会では二つの大きな決議事項がありました。一つはAPAYの次期総主事として、現APAY主事のチャン・ベンセン氏が就任することになりました。任期は2026年9月から2年間です。二つ目は2027年9月に開催されるアジア・太平洋YMCA大会の場所がタイのチェンマイに決まりました。

日本YMCA同盟 杉野 歌子

